

アリス・ベイリー著  
『テレパシーとエーテル体』

読書会 & シェア会

生命システム研究所

あんどうさわこ・根本泰行

お願い: ZOOMでの表示名を参加申し込みをした時のお名前にしてください。

# 大祈願

神の御心の光の源より

光をあまねく人の心に流れ入れさせ給え  
光を地上に降らせ給え

神の御心の愛の源より

愛をあまねく人の心に流れ入れさせ給え  
キリスト（如来）よ、地上に戻られ給え

神の意志、明らかなる中心より

大目的が人の貧しき意志を導かんことを  
如来は大目的を知り、これに仕え給う

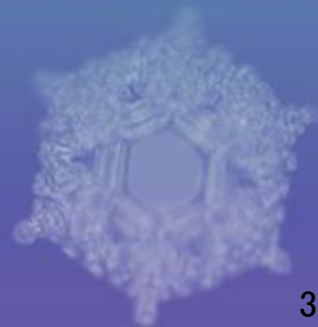
我らが人類と呼ぶ中心より

愛と光の大計画を成させ給え

悪の棲処すみかの扉を封じ給え

光と愛と力とをもて地上に大計画を復興させ給え

# 読書会



# 今日のスケジュール

読書会(21時5分位から1時間)

●担当:根本泰行

シェア会(読書会の後)

●担当:あんどうさわこ



**アリス・ベイリー** (Alice Ann Bailey, 1880年6月16日 - **1949年12月15日**)

神秘主義関係の作家で、神智学協会から派生した「アーケイン・スクール (不朽の知恵、秘教占星学)」の創立者。

米国では神智学協会に参加、ここでブラヴァツキーの著書に接し、協会員となった。1920年、アメリカ神智学協会で働く神智学者フォスター・ベイリーと再婚。その前年、大師 (マハトマ) の**ジュワル・クール** (英語版) からのメッセージを受け取るようになったという。

1922年、夫妻はルシファー出版社 (後年、**ルシス・トラスト** (英語版) に改名) を設立。1923年、彼女は「アーケイン・スクール」 (Arcane School) という団体を創設し、大師から受けたという教えを広めた。

**『テレパシーとエーテル体』** Telepathy and the Etheric Vehicle. (**1950**)



### ジュワル・クール大師 (Djwal Khul) 翻訳書3~4頁

私は他の人々と同じような肉体をまとってチベットの辺境に住んでいる。そして、私の責務が許すときには、（現世的な意味で）時にはチベットのラマ僧の大きな一団を統括している。私がこのラマ寺院の院長であると伝えられているのはこの事実によるものである。

私は一般の学ぶ人々よりも少しだけ長く道を歩み、そのためより大きな責任を負う、**あなた方の兄弟**である。

私が書いた本は、受け入れるよう要求することなく世に出される。それらは正しく真実で有益なものかもしれないし、そうではないかもしれない。それらが真実であるかどうかを適切な実践と直感の修練によって確信するのはあなた方の役目である。

語られていることが結果として確証に結びつくならば、もしくは、類似（対応）の法則のもとで照らし合せて正しいと思われるならば、それは申し分のないことである。しかし、そうでないならば、言われたことを受け入れてはならない。

# テレパシーとエーテル体

Telepathy and  
the Etheric Vehicle

アリス・ベイリー 著  
AABライブラリー 翻訳・発行

## 第二部 エーテル体に関する教え

- 1 エーテル体の性質…………… 162
- 2 非分離の基礎…………… 172
- 3 惑星と人間のセンター…………… 184
- 4 センターとパーソナリティー…………… 192
- 5 空間の性質…………… 203
- 6 惑星生命——太陽系の一つのセンター…………… 209

# アリス・ベイリー原著

[https://www.lucistrust.org/online\\_books/telepathy\\_and\\_the\\_etheric\\_vehicle\\_obooks](https://www.lucistrust.org/online_books/telepathy_and_the_etheric_vehicle_obooks)

## Telepathy And The Etheric Vehicle

### Sub-sections:

[SECTION ONE - TEACHING ON TELEPATHY - Part 1](#)

[SECTION ONE - TEACHING ON TELEPATHY - Part 2](#)

[SECTION ONE - TEACHING ON TELEPATHY - Part 3](#)

[SECTION ONE - TEACHING ON TELEPATHY - Part 4](#)

[SECTION ONE - TEACHING ON TELEPATHY - Part 5](#)

[SECTION TWO - TEACHING ON THE ETHERIC VEHICLE - Part 1](#)

[SECTION TWO - TEACHING ON THE ETHERIC VEHICLE - Part 2](#)

[SECTION TWO - TEACHING ON THE ETHERIC VEHICLE - Part 3](#)

## SECTION TWO - TEACHING ON THE ETHERIC VEHICLE - Part 1

TEACHING ON THE ETHERIC VEHICLE

### I. THE NATURE OF THE ETHERIC BODY

*See Chart Evolution of a Solar Logos*

Much that I may say here may be familiar to a certain extent, because there is a vast amount of information anent the etheric body scattered throughout my various books. It will have its value however if students can receive in a few pages a general idea and the basic concepts which underlie the teaching—or should I say, the fact? If they have the time, students would find it of profit to re-read what I said; run their eyes rapidly through the books and papers in search of the word "etheric." They will never regret it. Life itself, the training to be given in the future, the conclusions of science and a new mode of civilisation will all increasingly be focussed on this unique substance which is the true form to which all physical bodies in every kingdom in nature conform. Note that phraseology.



# 【補足】Yukoさんからのご指摘①

## 惑星ロゴス p.210:1行目以降

- **【根本のスライド】惑星ロゴス**
  - 12枚の花弁を持つ蓮華である太陽系の中で、1つの偉大な蓮華として存在している。そして、流入する多くのエネルギーに感応している。
  - **【参考】『秘教占星学(下)』(p.133)** 12の惑星 = 7つの聖惑星(ヴァルカン、水星、金星、木星、土星、海王星、天王星) + 5つの非聖惑星(火星、地球、冥王星、月、太陽)
- **【Yukoさんの別解釈】惑星ロゴスの「12枚の花弁を持つ蓮華」**
  - 「12枚の花弁を持つ」ということから、この「蓮華」とはハート・チャクラのことではないか。
  - **根本コメント** 確かにその可能性の方が高いように思います。

# 【補足】Yukoさんからのご指摘②

## 3つの主要センターの統合

p.214: 後ろから6行目以降

### ● 主要センターの統合

- この時代の終わりには、シャンバラのサナット・クマラがハイラーキーと人類というセンターの代理人たちをオーバーシャドーし、生命を吹き込むことによって、3つの主要センターは、統合され同調した完全な活動を行うようになるであろう。
- そのとき、3つの主要センターの集結したエネルギーが他の4つのセンターを支配し、すべての自然王国における生命表現の顕現を統御するようになるだろう。
- 【根本コメント】 他の4つのセンターとは、3つの主要センター（ヘッド＝シャンバラ、ハート＝ハイラーキー、喉＝人類）以外の4つのセンターのことか？
- 【Yukoさんの別解釈】 3つの主要センターとは人間王国、ハイラーキー、シャンバラであり、他の4つのセンターは、エレメンタル王国、鉱物王国、植物王国、動物王国のことではないか。

2023年11月13日(月)

『テレパシーとエーテル体』

6 惑星生命－太陽系の一つのセンター

215頁、後ろから2行目から始めます！

# 惑星のエーテル体

p.215: 後ろから2行目以降

## ● 惑星のエーテル体

- ここで私たちが考察してきたすべてのことがこの惑星のエーテル体内で起こっている。
- なぜなら、これらのセンター(根本注: シャンバラ、ハイラーキー、人類というセンター)はすべてエーテルの状態で存在し、そのような状態でのみ存在しており、シャンバラやハイラーキーの「エネルギーの単位たち」が肉体をまとして機能しているという事実には影響されないからである。肉体をまとしてい存在もあれば、まとしていない存在もいる。
- この両方のセンター(根本注: シャンバラとハイラーキー)内において条件づける生命はエーテル的な手段を通してのみ働き、エネルギーを行使し統御している。

# 質料と物質

p.216:4行目以降

## ● 質料(substance)と物質(matter)

➤ **人類センター**は、その「エネルギーの単位たち」と共に現在は主に純粹に**肉体レベル**で、つまり**私たちが「物質」と呼んでいるタイプの質料**を介して働いている。人々は**外的な形態、有形の元素、物質的な要因**に働きかけている。

✓ **【根本コメント】**ここでは、**物質は質料のひとつのタイプ**としている。

➤ 他のセンター(根本注:**シャンバラとハイラーキー**)の「単位たち」は**質料**に働きかけ、**物質**には働きかけない。これは興味深い極めて重要な違いである。

✓ **【根本コメント】**ここでは、**物質と質料**は、それぞれ互いに異なるものとしている。

# 3つのセンターの存在界層

p.216:7行目以降

## ● シャンバラ

- 宇宙エーテル界の三つの最高のエーテル・レベルで働く。
- 【根本コメント】第一宇宙エーテル界＝ロゴス界、第二宇宙エーテル界＝モナド界、第三宇宙エーテル界＝アートマ界

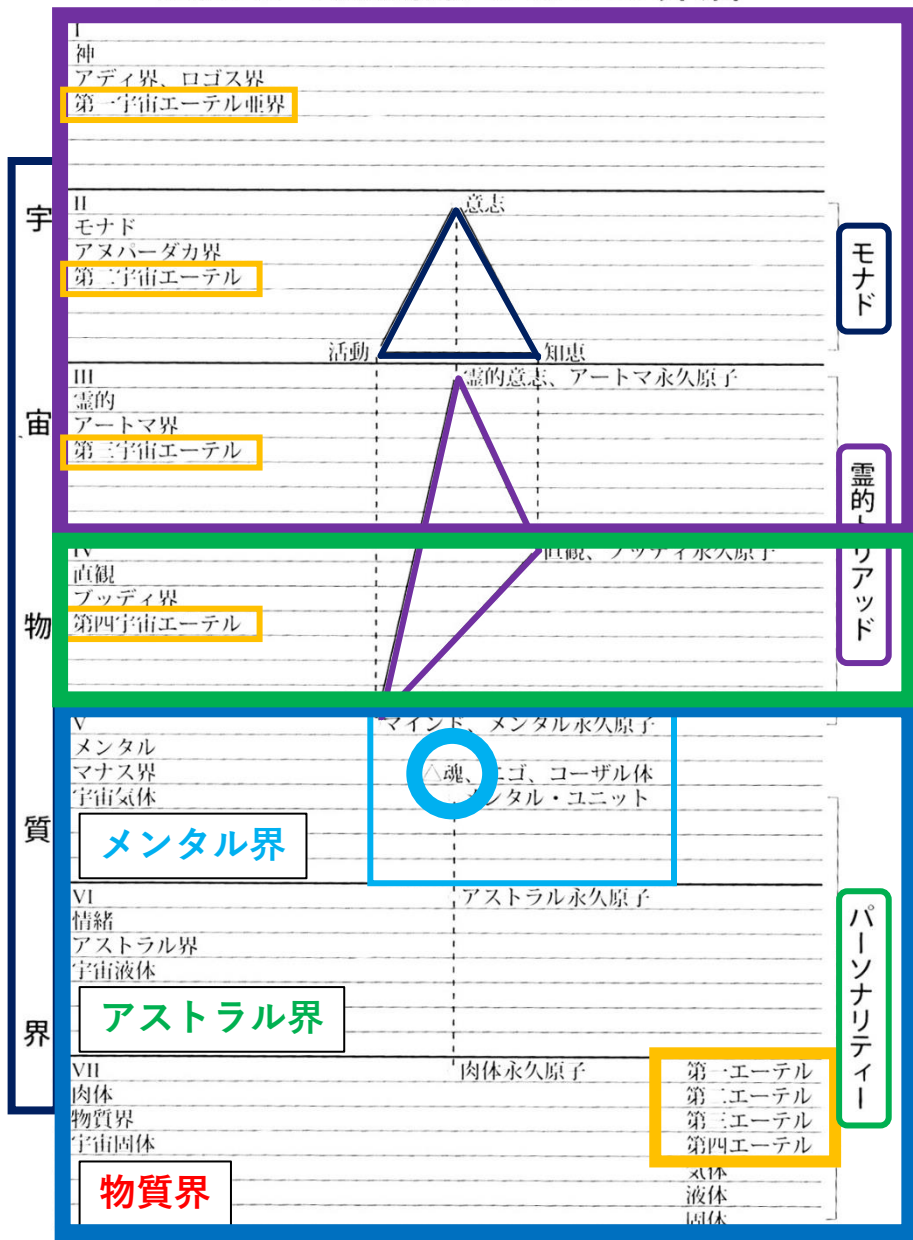
## ● ハイラーキー

- 宇宙エーテル界の最初の界層であるブッディ界に存在し、その界層から働く。
- 【根本コメント】第四宇宙エーテル界＝ブッディ界

## ● 人類

- 主に濃密な宇宙物質界の三つの界層で働く。
- 【根本コメント】メンタル界＝マナス界＝宇宙気体、情緒界＝アストラル界＝宇宙液体、肉体界＝物質界＝宇宙固体
- 世界奉仕者の新集団には、物質と質料の両方に働きかけることのできる「エネルギーの単位たち」がいる。

# 私たちの太陽系の七つの界層

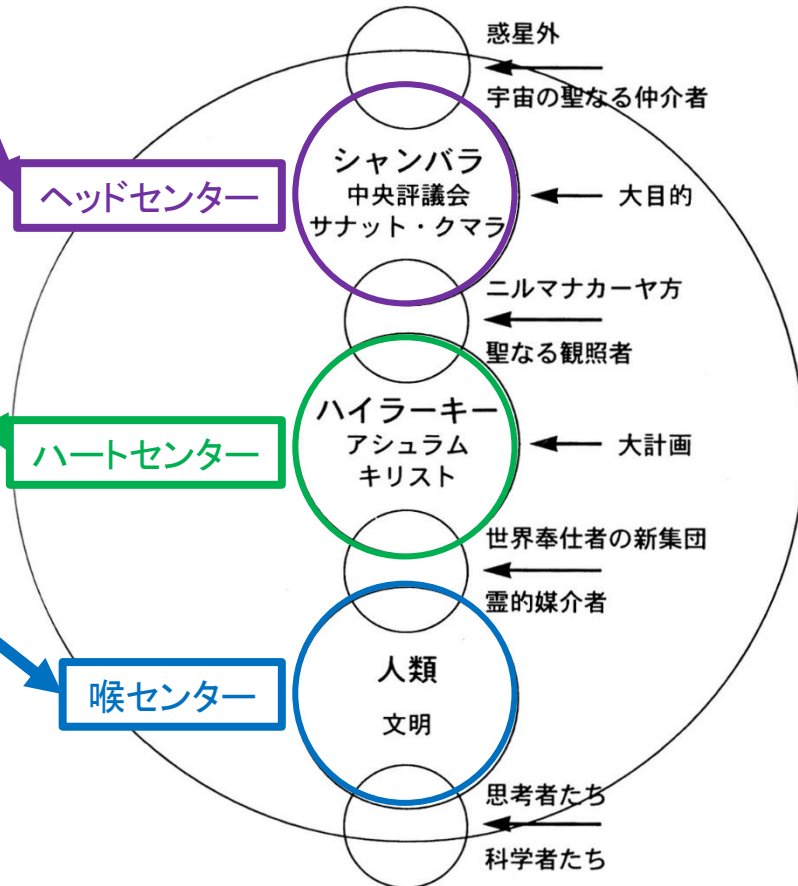


人間の構造

# 3つのセンターの存在界層

p.216:7行目以降

- **シャンバラ**…宇宙エーテル界の三つの最高のエーテル・レベル(ロゴス界、モナド界、アートマ界)で働く。
- **ハイラーキー**…宇宙エーテル界の最初の界層であるブッディ界で働く。
- **人類**…主に濃密な宇宙物質界の三つの界層(メンタル界、アストラル界、物質界)で働く。



# 質料と物質、再び

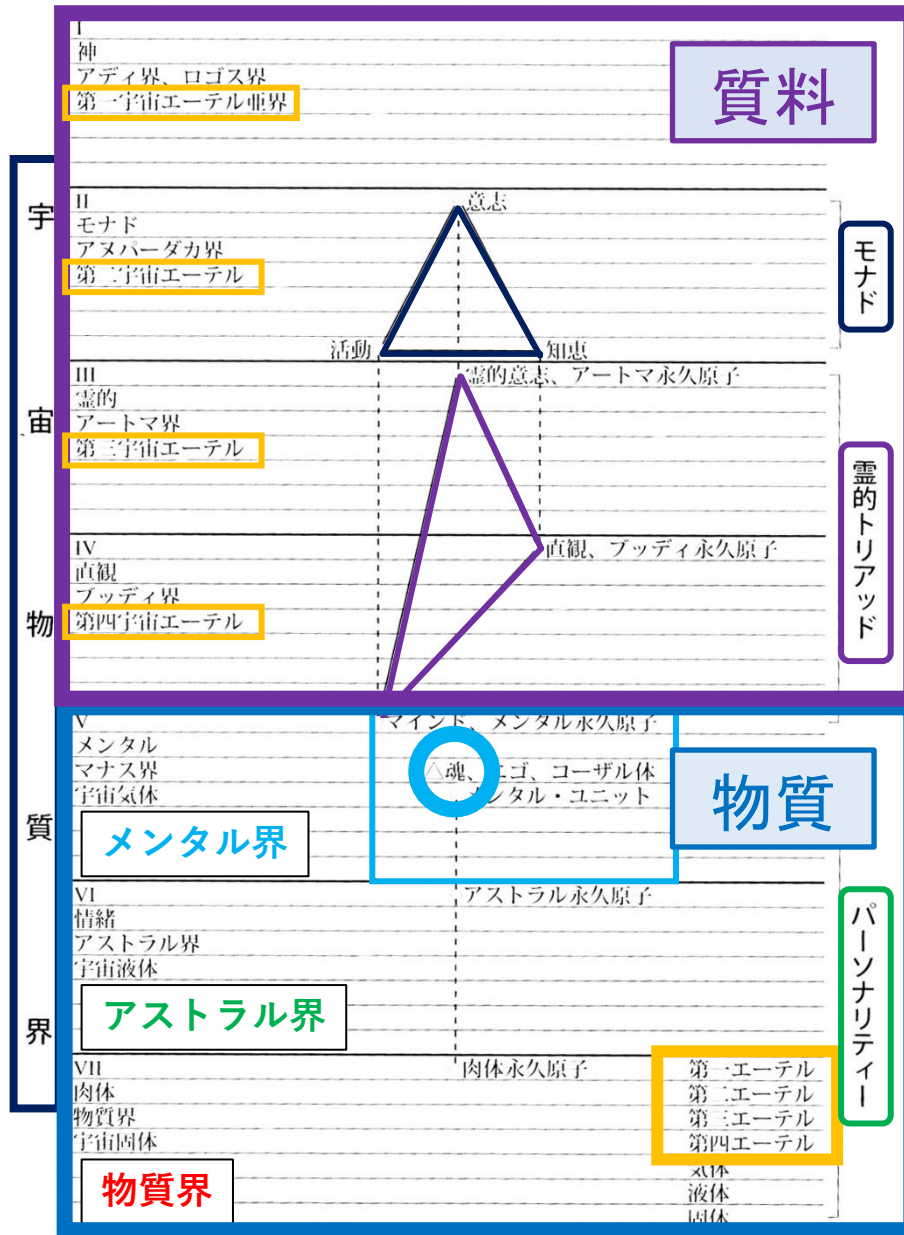
p.216: 後ろから8行目以降

## ● 質料と物質

- 非常に興味深い違いと滅多に把握されないことがある。
- 秘教的に言えば、「物質」もしくは物質的という用語は三界のすべての形態を指している。一般の人々には、メンタル作用が生じるときに用いる媒体と、すべての想念形態が作られるものが、霊的な観点から見れば、物質であるということを理解するのは難しい。しかし、そうなのである。
- 質料とは一専門的に言えば、また秘教的に理解すると一実際には宇宙エーテル物質、つまり私たちの七つの界層の四つの高位界層を構成する物質である。



# 私たちの太陽系の七つの界層



人間の構造

## 質料と物質

p.216: 後ろから8行目以降

- **質料**とは一専門的に言えば、また秘教的に理解すると一実際には**宇宙エーテル物質**、つまり**私たちの七つの界層の四つの高位界層を構成する物質**である。
- 秘教的に言えば、「**物質**」もしくは**物質的**という用語は**三界のすべての形態**を指している。

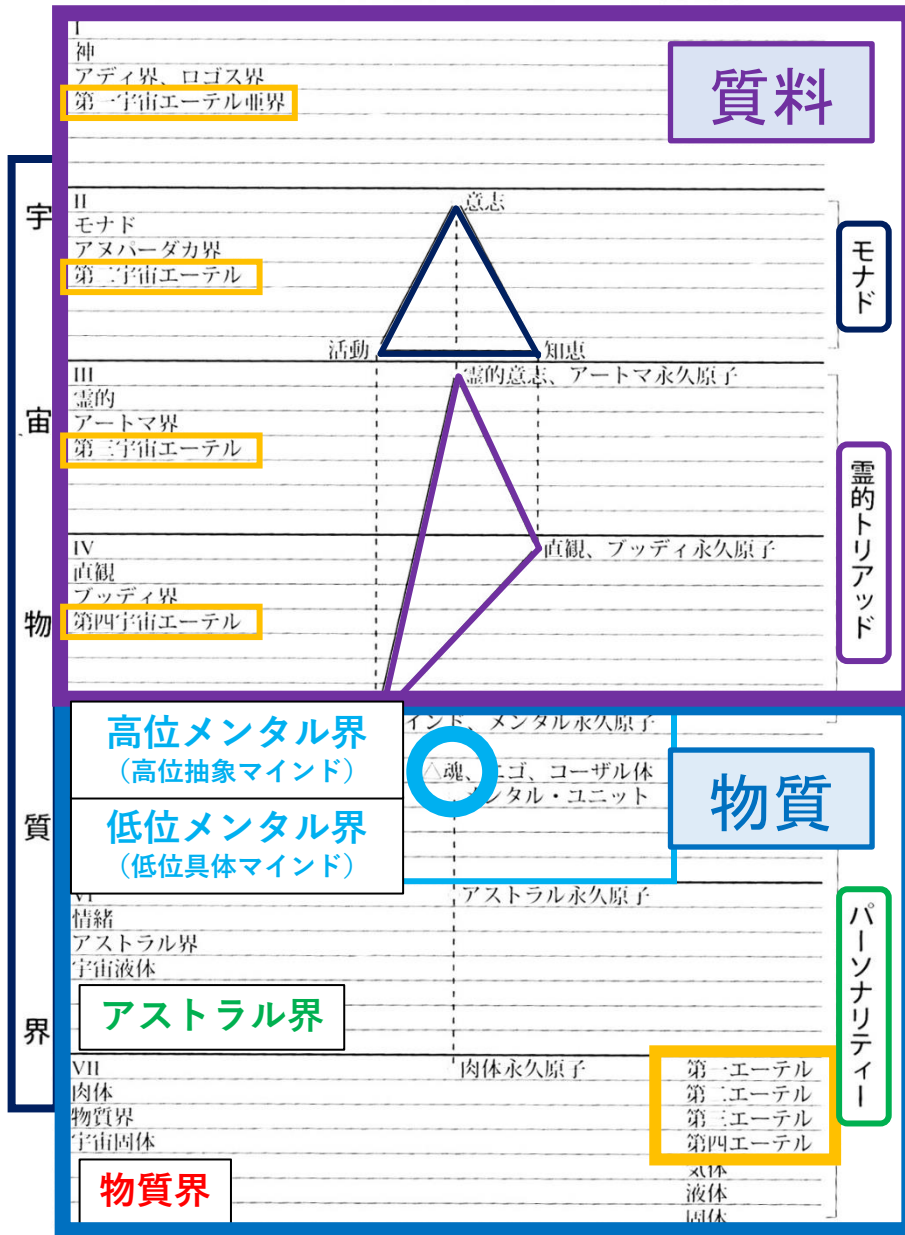
# 質料と物質、再び

p.216: 後ろから8行目以降

## ● 質料と物質

- 非常に興味深い違いと滅多に把握されないことがある。
- 秘教的に言えば、「物質」もしくは物質的という用語は三界のすべての形態を指している。一般の人々には、メンタル作用が生じるときに用いる媒体と、すべての想念形態が作られるものが、霊的な観点から見れば、物質であるということを理解するのは難しい。しかし、そうなのである。
- 質料とは一専門的に言えば、また秘教的に理解すると一実際には宇宙エーテル物質、つまり私たちの七つの界層の四つの高位界層を構成する物質である。
- 人間の視点から見れば、宇宙エーテル質料に働きかけ、それを用いる能力は、抽象マインドが目覚め、具体的マインドに印象づけ始めたときに、まず最初に実証される。

# 私たちの太陽系の七つの界層



人間の構造

## 質料と物質

p.216: 後ろから3行目以降

- **人間**の視点から見れば、**宇宙エーテル質料**に働きかけ、それを用いる能力は、**抽象マインド**が目覚め、**具体的マインド**に印象づけ始めたときに、まず最初に実証される。

# 直観について

p.216: 後ろから2行目以降

## ● 直観について

- 直観とはエーテル質料をまとったアイディアであり、これらのアイディアに感応するようになった瞬間、人間はエーテルを統御するテクニックを習得し始めることが可能になる。
- これはすべて、実際には、偉大な創造過程の一つの様相である。
- ブッディ的な存在レベル (最初の、つまり最低の宇宙エーテル) から発せられるアイディアはメンタル界の抽象レベルの物質をまとわなければならない。次に、具体メンタル界の物質をまとい、後に欲求物質 (根本注: アストラル界の物質)、そして最後に(それほど長く生きているならば) 物質的な形態になる。
- 聖なる意識の直観レベルから来るアイディアが真のアイディアである。
- そのアイディアは、装備 (根本注: 表現媒体) の中に同じ特質の質料がある人によって認められ、理解される —なぜなら、人間とアイディアの磁力的な関係こそが、それを理解できるようにしているからである。

# 創造について

p.217:7行目以降

## ● 創造について

- この偉大な創造過程において、もしできるならば、彼はアイデアに形態を与えなければならない。
- このようにして創造的な芸術家や創造的な人道主義者が誕生し、それによって聖なる創造的な意図が促進される。
- しかしながら、アイデアが死産や流産に終わることで、顕現へと到達するのに失敗することもある。

# 人間の3つの主要センター

p.217: 後ろから7行目以降

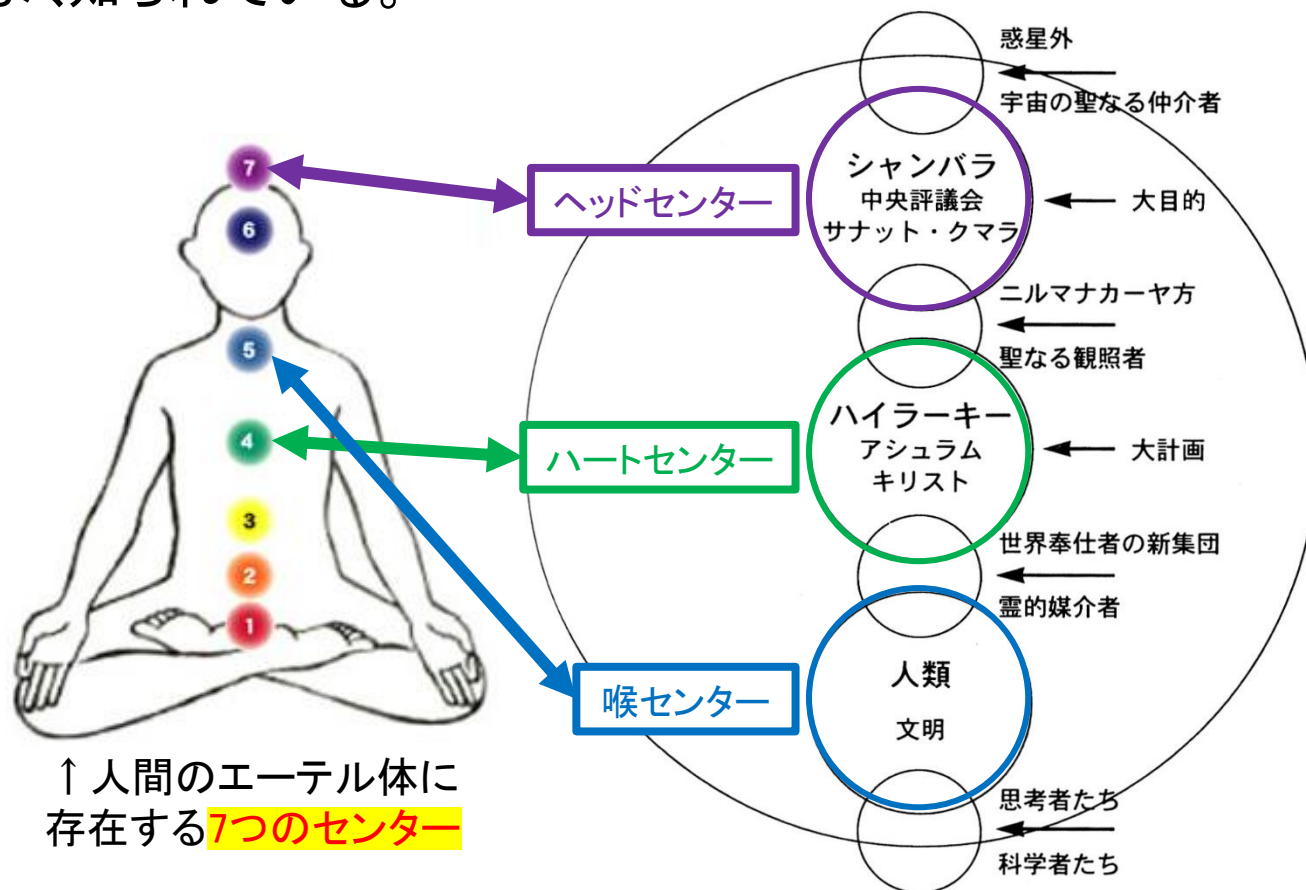
- 人間の3つの主要センターについて

- 3つの主要センターに対応するものが人間のエーテル体  
あり、その対応物それぞれがその高位の対応物に関係して  
いるため、対応する高位の媒介によって「印象づけられるこ  
と」、つまりその影響を受けて目覚めさせられることはよく知  
られている。

# 人間の3つの主要センター

p.217: 後ろから7行目以降

- **3つの主要センター**に対応するものが**人間のエーテル体**にあり、その対応物それぞれがその高位の対応物に関係しているため、対応する高位の媒介によって「印象づけられること」、つまりその影響を受けて目覚めさせられることはよく知られている。



# 人間の3つの主要センター①

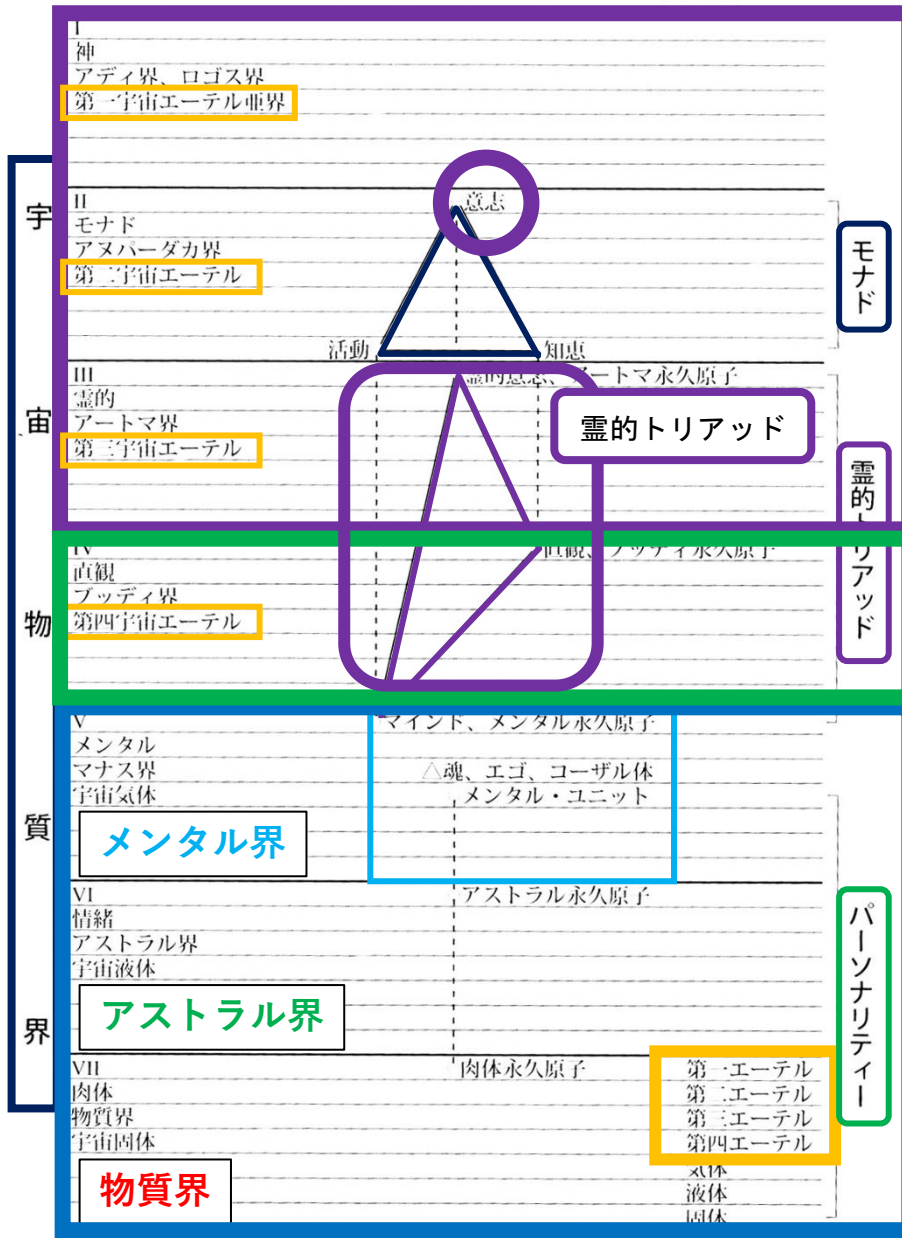
p.217: 後ろから4行目以降

## ● シャンバラ

- シャンバラという惑星センターからのエネルギーは、人間が十分に発達したとき、ヘッド・センターつまり千枚の花弁を持つ蓮華を用いる。
- このセンターは、霊的人間の生命内にある聖なる意志の媒介であり、霊的トリアッドを通して働く。

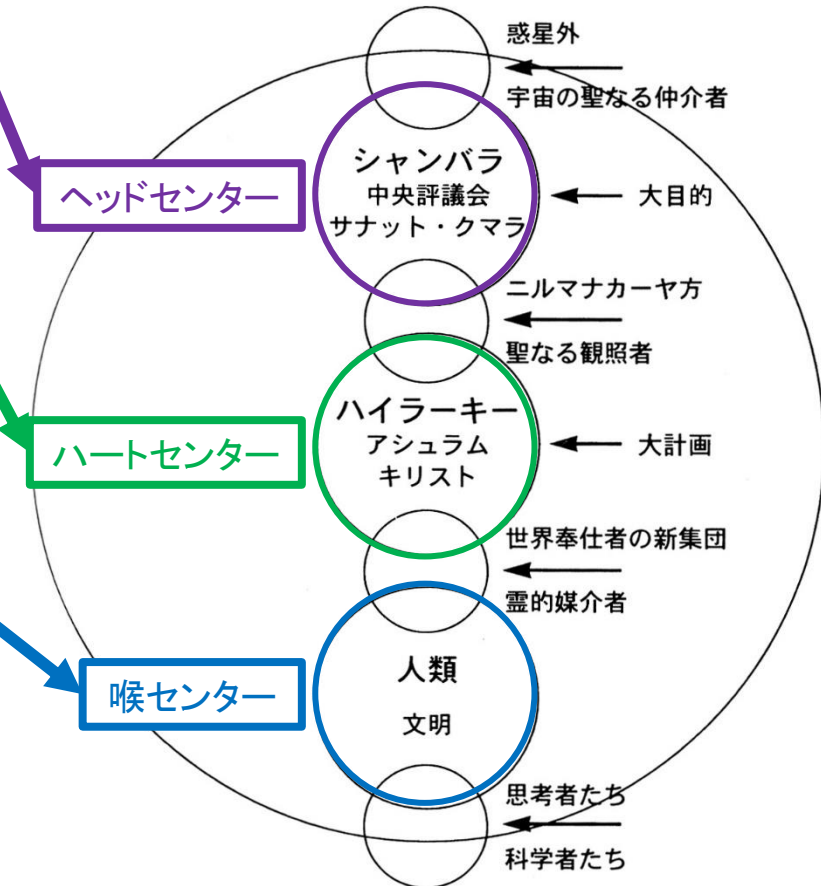


# 私たちの太陽系の七つの界層



人間の構造

- **シャンバラ**という惑星センターからのエネルギーは、人間が十分に発達したとき、**ヘッド・センター**つまり**千枚の花弁を持つ蓮華**を用いる。
- このセンターは、霊的人間の生命内にある**聖なる意志**の媒介であり、**霊的トリアッド**を通して働く。



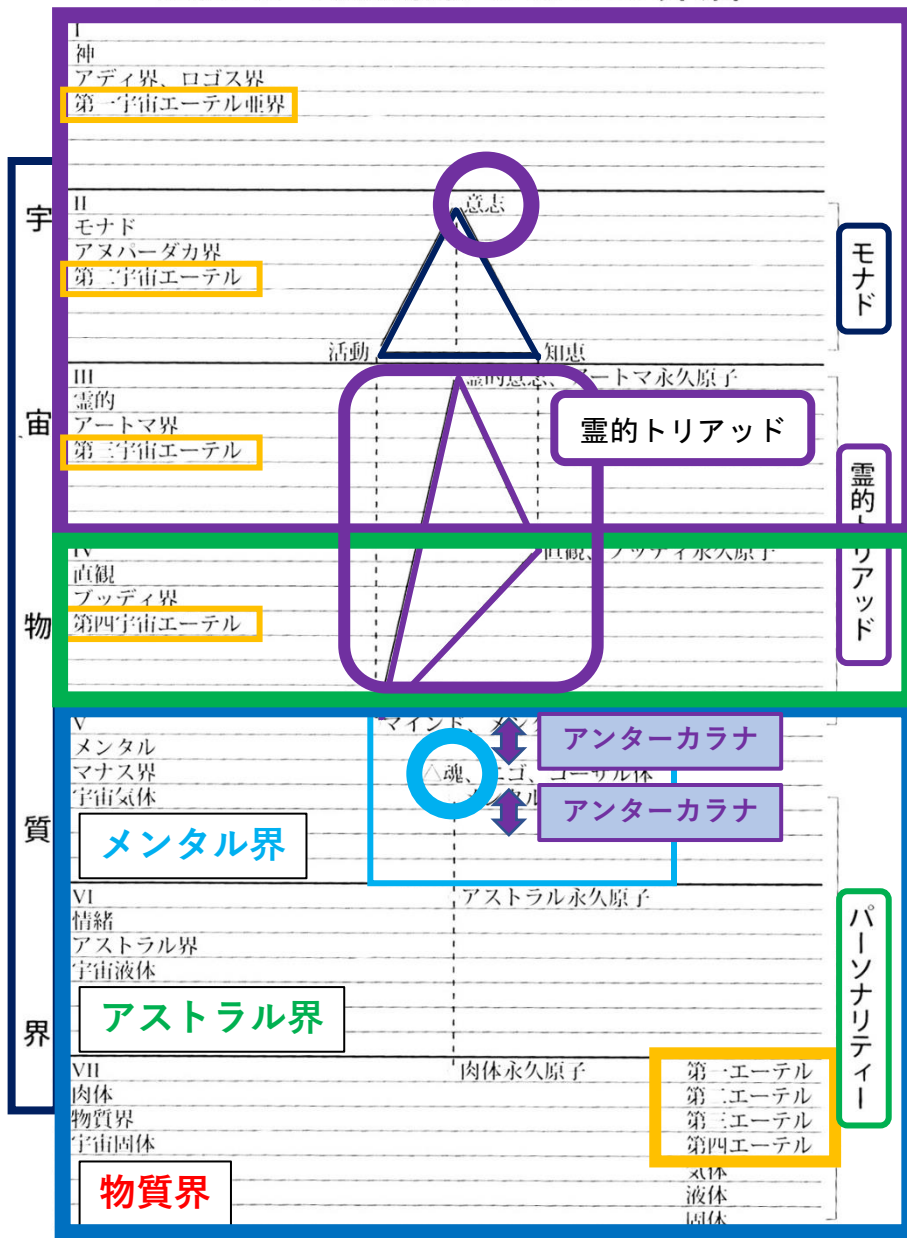
# 人間の3つの主要センター①

p.217: 後ろから4行目以降

## ● シャンバラ

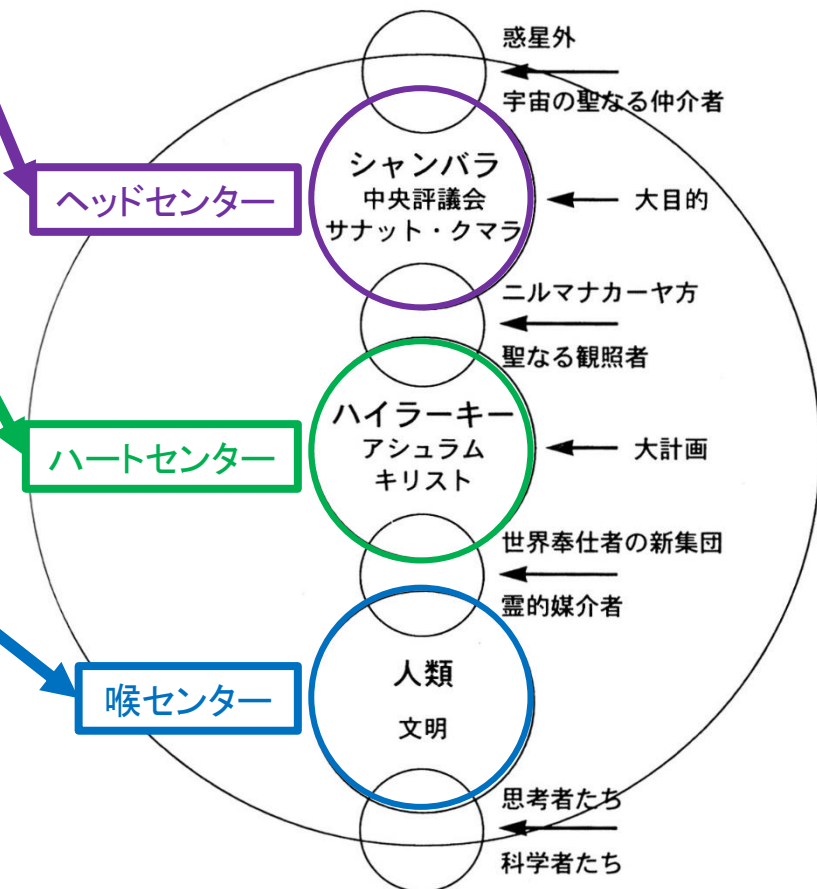
- シャンバラという惑星センターからのエネルギーは、人間が十分に発達したとき、ヘッド・センターつまり千枚の花弁を持つ蓮華を用いる。
- このセンターは、霊的人間の生命内にある聖なる意志の媒介であり、霊的トリアッドを通して働く。
- それは、アンターカラナが構築されたか構築される過程にあるときに初めて、前向きに有効になる。

# 私たちの太陽系の七つの界層



人間の構造

- **シャンバラ**という惑星センターからのエネルギーは、人間が十分に発達したとき、**ヘッド・センター**つまり**千枚の花弁を持つ蓮華**を用いる。
- このセンターは、霊的人間の生命内にある**聖なる意志**の媒介であり、**霊的トリアッド**を通して働く。



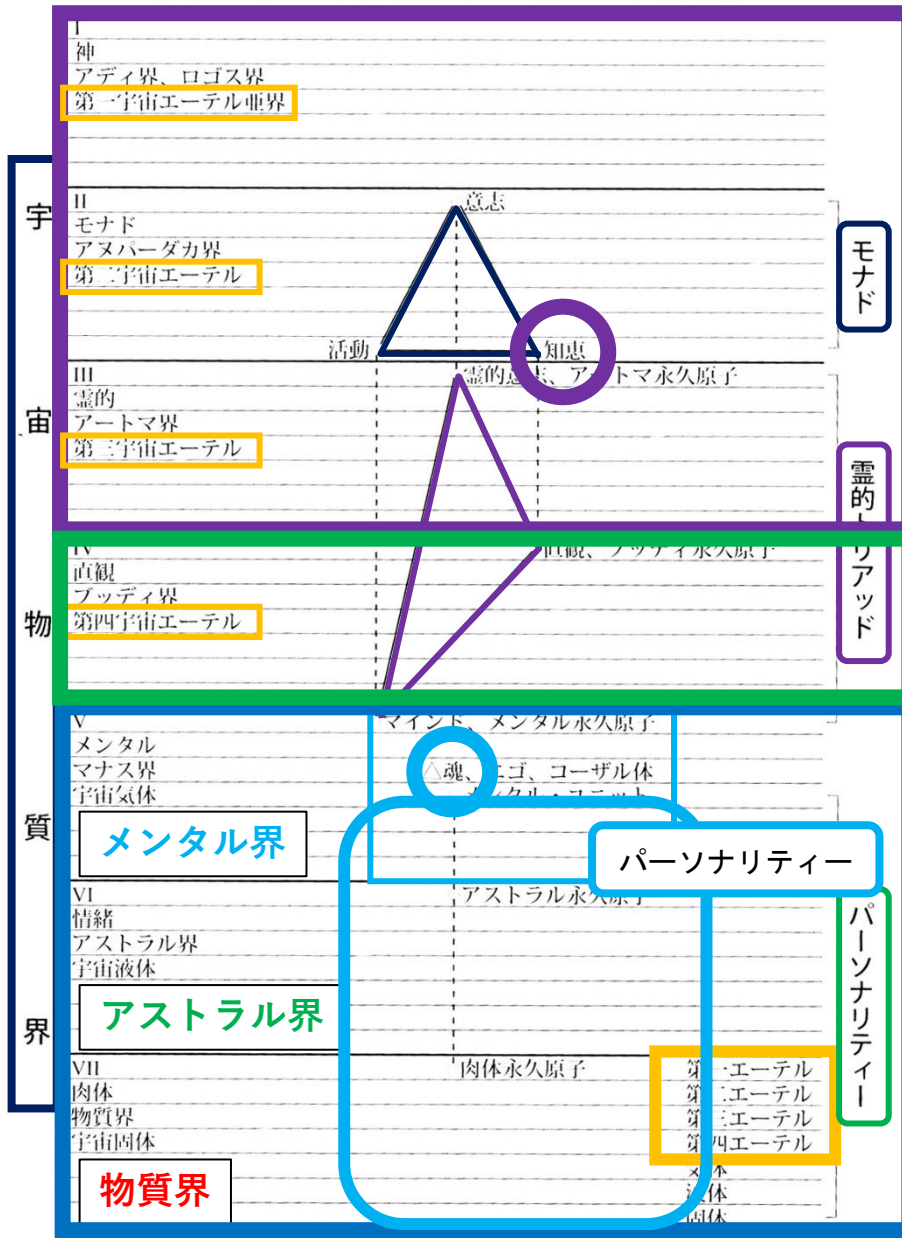
# 人間の3つの主要センター②

p.218:1行目以降

## ● ハイラーキー

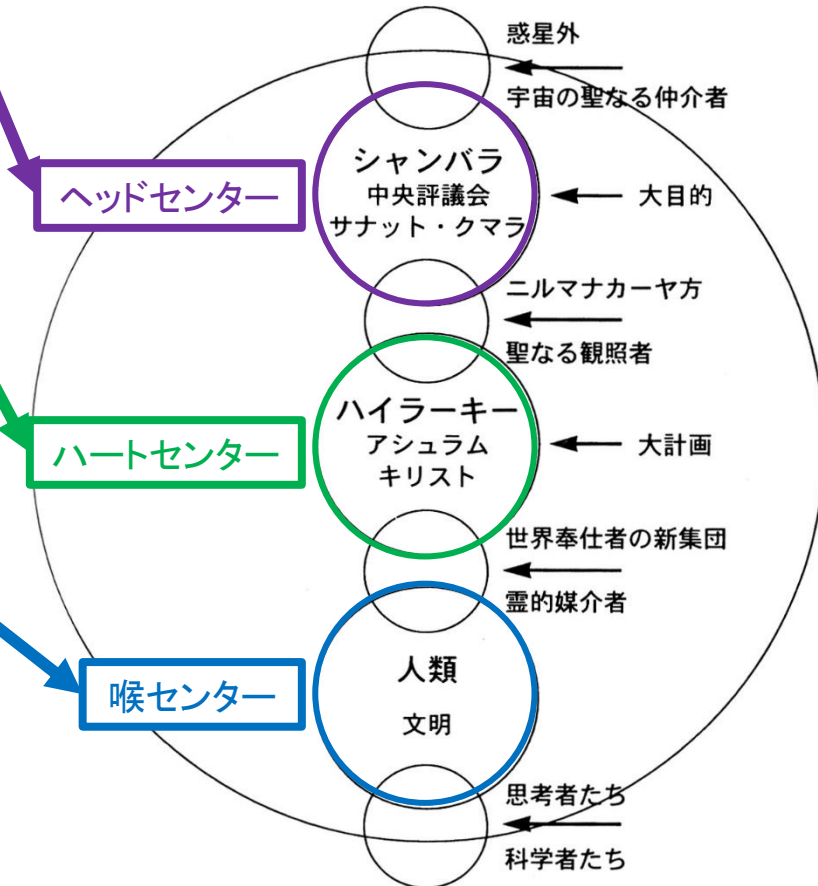
- **ハイラーキー**という惑星センターからのエネルギーは**ハー**  
**ト・センター**を用いる。
- このセンターは、個々の熱誠家や弟子の**魂**を通して働く(基本的には善をなさんという意志を表現する)**聖なる愛**の媒介である。
- これは、**魂との接触**がある程度達成され、熱誠家が**魂を吹き込まれたパーソナリティー**になる途上にあるときに可能になる。

# 私たちの太陽系の七つの界層



人間の構造

- **ハイラーキー**からのエネルギーは**ハート・センター**を用いる。
- このセンターは、**魂**を通して働く**聖なる愛**の媒介である。
- これは、**魂との接触**がある程度達成され、**熱誠家が魂を吹き込まれたパーソナリティー**になる途上にあるときに可能になる。



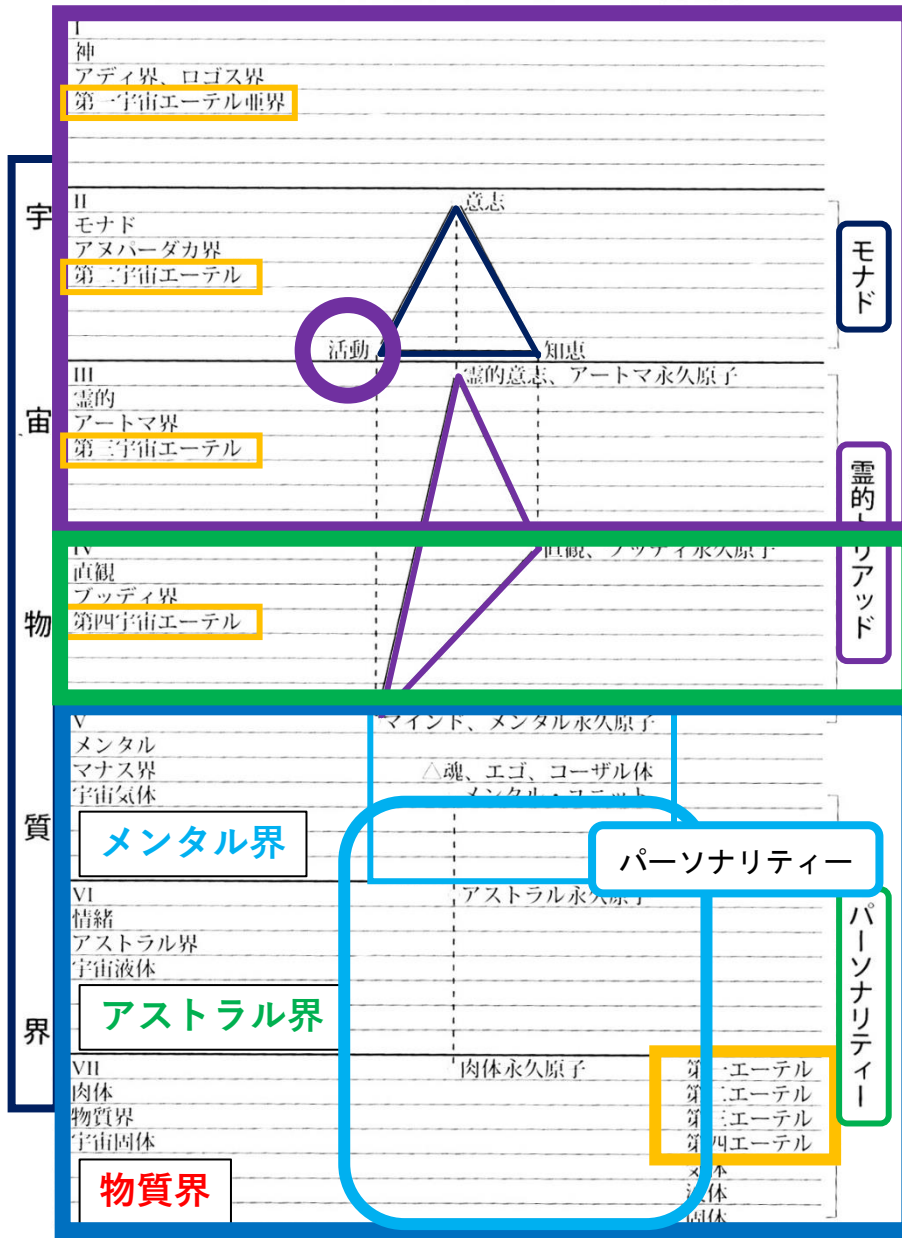
# 人間の3つの主要センター③

p.218:5行目以降

## ● 人類

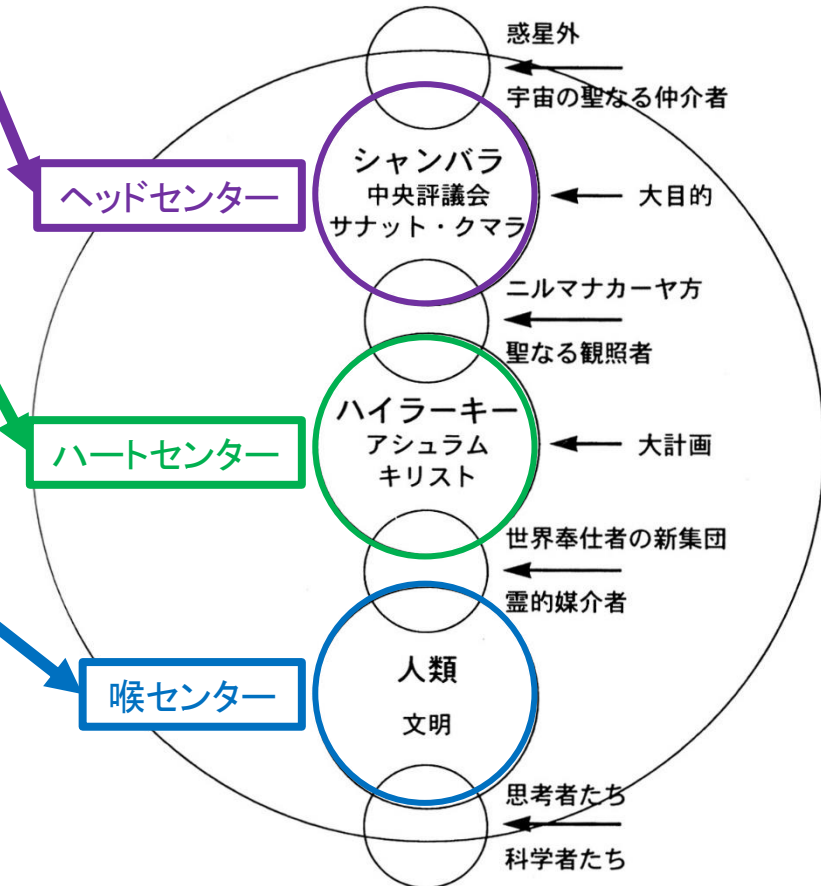
- 第3の惑星センターである人類からのエネルギーは喉センターを用い、統合したパーソナリティーを通して働く。
- したがって、これは比較的高い進化的な開花が達成されたときにのみ可能である。
- 【根本コメント】逆に言えば、比較的高い進化的な開花が達成される以前は、ヘッド・センターとハート・センターの2つが重要である ⇒ 【ツインハート瞑想】
- 喉センターは、低位性質がある程度理想主義的な熱誠に従属したときに初めて、創造的かつ靈的に活発になる。
- 統合した人間全体がその道具になり、すべての創造的な能力を表現へと呼び起こすほど大きな性質のものである。

# 私たちの太陽系の七つの界層



人間の構造

- 第3の惑星センターである**人類**からのエネルギーは**喉センター**を用い、**統合したパーソナリティー**を通して働く。
- それは、**統合した人間全体がその道具になり、すべての創造的な能力を表現へと呼び起こすほど大きな性質のものである。**



# この太陽系におけるハート・センター

p.218: 後ろから6行目以降

## ● ハート・センター

- この太陽系においては、通常はハート・センターが最初に目覚めて活発になる。
- そのセンターが生命に満ち、ある程度の活動が始まると、ただちに他の2つの主要センター(根本注:ヘッド・センターと喉センター)は目覚め始めることが可能になる。
- これに対応するものとして、ハイラーキーが惑星のヘッド・センターと喉センターであるシャンバラと人類の間の媒介要因、つまり中間要因であるという事実が見られる。
- そのため、すべての教えに置いて、ハートの様相に重点が置かれるのである。



# 受容的な分配する媒介である 2つのセンター

p.218: 後ろから1行目以降

- **アジュナ・センター(眉間のセンター)**(=第6チャクラ)
  - 3つの主要センターと関連して働くが、現在の人類の発達段階では、ハート・センターと喉センターから受け取った魂のフォースと霊的なエネルギーの分配者として働いている。
- **太陽叢センター**(=第3チャクラ)
  - 仙骨センター(=第2チャクラ)と生命のセンターである脊柱基底センター(第1チャクラ)と関連して働くが、それはまた、横隔膜よりも下にあるすべての補助的なセンターに働きかけ、それらのエネルギーを集めて変性し、純化されたものを高位の主要センターに送る。

# 存在しようという意志と生きようという意志

p.219:7行目以降

## ● 存在しようという意志 (the will-to-be)

- ある見方をすれば、**不死のエネルギー**である。
- **ヘッド・センター**に流れ込み、**ヘッド・センター**を通して働くエネルギーである。
- **聖なる霊的人間**に関係し、**魂**と、したがって**ハート・センター**と密接に結びついている。

## ● 生きようという意志 (the will-to-live)

- **自己保存**という**基本的な本能**として現われ、**脊柱基底のセンター**に明確に集中しているのが見られる。
- この意志は**パーソナリティー**に関係しており、**欲求**と、したがって**太陽叢センター**と密接に結びついている。
- これまで認知されていなかったエネルギーの直接的な経路が**脊柱の最低位のセンター**と**太陽叢センター**の間に存在する。

# 重要な要素①

p.219: 後ろから1行目以降

- **重要な要素**…光線や進化段階に関係なく、各々すべての人にとって同じである。
  1. **人間のエーテル体は惑星のエーテル体の不可欠な部分**であり、多くの循環するエネルギーの滞りのない分配に敏感に反応する。
  2. **人間としての表現を構成し、彼を彼であるものにする3つの周期的な媒体**(**モナド、魂、パーソナリティー**)はそれぞれ、**3つの惑星センター**、つまり**シャンバラ、ハイラーキー、人類**に関係しており、したがって**個人の3つの主要センター**にも関係している。
  3. **横隔膜よりも上にある人間の3つのセンター**(**ヘッド、ハート、喉センター**)は、**3つの惑星センター**からのエネルギーを受け取る器官である。

# 重要な要素②

p.219: 後ろから1行目以降

## ● 重要な要素(続き)

4. **ヘッド**、**ハート**、**喉センター**を經由して受け取ったエネルギーを分配する媒介は眉間の**アジュナ・センター**である。
5. 横隔膜よりも下にあるすべてのセンターのエネルギーの純化と変性と伝達のための媒介は**太陽叢センター**である。人類の大部分が現在働いているのはこの**センター**を通してである。それは、**ハート・センター**が目覚めて**パーソナリティー**を統御し始めるまでは、エネルギーの受容と分配を主に統御する**センター**である。



**【根本コメント】**ドランバロ・メルキゼデクが教えている**マカバ瞑想**は、エネルギーの中心を、**太陽叢センター**から**ハート・センター**に持ち上げることが、そのひとつの目的である。

お知らせ

# 生命システム研究所

<https://life-system-labo.com/>

## ● 葦原瑞穂・著『黎明』と私論『宇宙の創造原理』②

- 日時: 11月25日(土)19:00~21:00 [ZOOM]
- 内容: 『黎明』(2017年新版、葦原瑞穂・著、太陽出版・刊)の上巻・後半部分である「第八章 誕生と死」から「第十五章 チャネリング」までに記されている内容をご紹介するとともに、試論・私論『宇宙の創造原理』との間での考え方の共通点・相違点について議論します。
- 詳細: ウェブサイト準備中
- お申し込み: ウェブサイト準備中

# 満月ツインハート瞑想会 & 新月読書会

毎月満月の日の21時～22時に、ZOOM上で無料で開催します。  
初心者大歓迎！ 聖なる愛と光を地球全体に送るための瞑想法です。

- 2023年11月27日(月)21時～22時、担当:あんどうさわこ
- 2023年12月27日(水)21時～22時、担当:あんどうさわこ

必ずウェブサイトから申し込んでください。

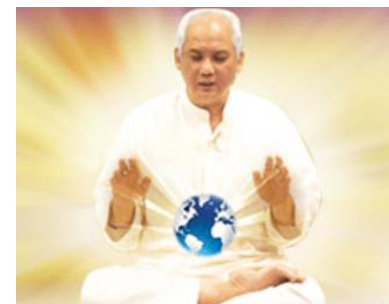
<https://life-system-labo.com/2022-3twinheart/>

2024年も同様に、毎月満月の日の21時から、  
ZOOM上で、ツインハート瞑想会を開催します！

2023年1月22日より、毎月新月の日の21時からアリス・ベイリー  
著『テレパシーとエーテル体』の読書会とシェア会を開催して  
います。ウェブサイトから申し込んでください。

2024年も同様に、毎月新月の日の21時から、  
ZOOM上で、読書会とシェア会を開催します！

- 2024年のテキストについては、『テレパシーに関する教え』を考えています。



# シェア会

